

情熱と実行 ―高く、広く、そして豊かに―

校長 沖田浩史

保護者の皆様には、日頃から、本校の教育活動に対しまして御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。松山東高校では、各自の目標達成のために熱い気持ちと実行力を必要とする「情熱と実行」、そして、高い目標、広い視野、豊かな人間性を涵養する「高く、広く、そして豊かに」を教育活動の目標として掲げております。学習、部活動、学校行事を通して、地域の負託や生徒・保護者の皆様の期待に応える教育を推進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の父は、宇和島市内の鮮魚店から不要になった魚の頭をもらい、それを工場で高温乾燥させて、飼料（家畜のえさ）を製造する仕事をしていました。幼い頃、私はよく、父の車に乗せられて、その仕事の様子を見ていました。工場には、魚や飼料のにおいが充満していました。

私が小学校高学年の頃、その年の遠足で、父の工場の前を通ることがわかったとき、私は、父の工場のおいのことを知られたくない、という趣旨のことを、宿題の日記に書いて提出しました。

次の日、先生の返事には、日記に書かれた私の思いを知ったら、父が悲しむであろうと、書かれていました。私は驚き、落ち込みました。親がどんな思いで働いているか、その思いを踏みにじるような気持ちでいたことに気付かされたのです。

父は、中学を出て働き始め、そこで身に付けたことを生かして飼料製造の職を選び、家族を養うために頑張っていたと聞いています。私は、高校・大学と奨学金をもらいながらも、不自由を感じることなく高校生活、大学生活を送りました。

父は70歳まで働き、平成31年3月、その年の5月から始まる「令和」を知らずに、82歳で他界しました。日記のことは父には話しませんでした。私の苦い思い出の一つです。父に話したとしても、許してくれるだろうと、勝手に思っています。

教師となり親となった私は、こうした苦い経験があるからこそ、若い世代に、働くことの尊さや、親への感謝の思いを持つことの大切さを伝えることができるのではないかと考えています。

東高生には、生徒たちには本当の強さと賢さを身に付けた人になってほしい、その強さと賢さは、人への感謝と思いやりといった「豊かな人間性」に裏打ちされていなければならないと思っています。そして、東高生は、人間性が豊かで、賢く強い人物になってくれると信じています。

保護者の皆様、私たち教職員一同は、人間性が豊かで、将来の目標に向けて、「情熱と実行」の精神で努力し頑張る生徒の皆さんを支えてまいります。改めまして、本校の教育活動に対する御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。